授業改善推進プラン < 技術・家庭 >

(技術・家庭) 科における令和7年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

<成果>

- ・ I C T機器を活用することで、前時の学習内容を短時間で確認すると共に、作業内容を分かりやすく伝えることに効果的であった。
- ・ 家庭や地域社会との連携においては、ものづくり教育・学習フォーラムや区展、都展に作品を展示することで、日頃の実践的体験学習の様子を伝えることができた。

<課題>

- ・ すべての題材に意欲をもたせることや、見通しを立てて最後まで取り組む姿勢を育てていくこと。

(技術・家庭) 科における調査結果の分析

分野別結果の分析	<p>○技術分野に関して</p> <p>実習に対して意欲的に取り組む生徒が多いが、ものづくりの経験が少なく作業の見通しをもつことが難しい生徒もいる。習熟度に大きな差が生じないように書画カメラや動画等を活用して視覚的な教材を使用するなどの配慮が必要。</p> <p>○家庭分野に関して</p> <p>どの題材にも熱心に取り組もうとする姿勢ができてきているが、最後までその意欲を継続できない生徒もいる。また、学んだことを生活に生かせるよう実践的、体験的な学習の機会を3年間見通して設ける必要がある。</p>
観点別結果の分析	<p>○「知識・技能」について、説明した時は理解しているが定着までには至っていないので反復学習の必要がある。基礎的な技能は身に付いてきているが、生活に活用する力は不十分である。</p> <p>○「思考・判断・表現力」について、ものづくりでは身に付けた知識・技能を活用して作品を工夫しようとする力は育ってきているが、生活を工夫し生かしていくまでには至っていない。</p> <p>○「主体的に取り組む態度」について、技能を向上させようとする取り組みはみられるが、自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする取り組みが不十分である。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・「知識・技能」の定着を図るための学習指導の工夫
- ・「思考・判断・表現力」育成のための問題解決型の授業の工夫

(技術・家庭) 科の授業改善策

- ・ 知識・技能を活用した課題や小テスト等、反復学習の機会を設ける。
- ・ 学習したことを自身の生活に生かせるような場面を設定し、実践的・体験的な問題解決型の授業を行う。
- ・ 持続可能な社会の構築が目指せるよう、社会や環境を関連づけた授業展開をする。
- ・ 生徒自身が I C T機器を活用して、意見交換や製作、発表をする授業を積極的に取り入れる。